

Dream up the future.

NRI グループは未来社会を洞察し、
その実現を担う『未来社会創発企業』として、
あくなき挑戦を続けます。

大阪・名古屋・東京で開催 未来創発フォーラム2007

変わりゆく世界、進みゆく日本。

2010年の日本——「競争」、そして「共生」を考える。

トピックス

NRIのアグリゲーション技術を導入した
「JAL MAP」がグッドデザイン賞を受賞

国内最新鋭設備を誇る
「横浜第二データセンター」が竣工

ディスクロージャー優良企業に
5年連続で選定される

買い物レシートのデータを収集し、
消費動向データを提供するサービスを開始

未来創発

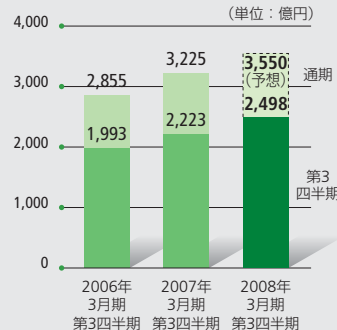
Dream up the future.

「未来創発—Dream up the future.」は
未来社会のパラダイムを洞察し、
新しいビジネスモデルを創出していく
NRIグループの理念を表すステートメントです。
NRIグループはナビゲーション&ソリューションを通じ、
未来社会創発企業として、あくなき挑戦を続けます。

目次	1 数字で見るNRI
	3 業種別およびセグメント別の概況
	5 連結財務諸表
	7 トピックス
	10 未来創発フォーラム2007
	18 会社データ

売上高

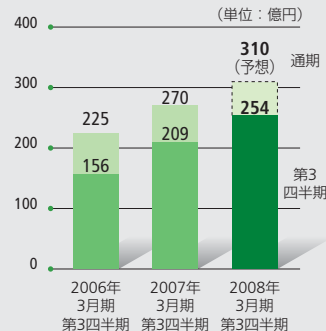
2,498億円 前年同期比 +12.3%



売上高は、金融機関からの旺盛な需要を背景に、2,498億円と前年同期比12.3%の増収となりました。

当期純利益

254億円 前年同期比 +21.8%



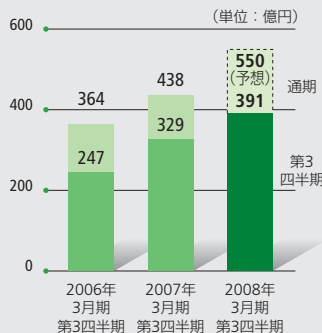
当期純利益は、保有株式の売却による特別利益があったため、254億円となりました。
通期予想については、年金制度の改定による特別損失などを見込み、310億円に修正しました。

- (注) 1. 記載金額は、億円未満(1株当たり当期純利益・配当金は円未満)を切捨てて表示しております。
- (注) 2. 2008年3月期通期予想は、2008年1月25日に発表したものです。業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。したがって、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により、実際の売上高、利益および配当金は当該予想と異なる結果となる可能性があります。
- (注) 3. 2006年3月期・2007年3月期の1株当たり当期純利益・配当金は、株式分割(1:5)による影響を遡及しています。

営業利益

391億円

前年同期比 **+18.9%**

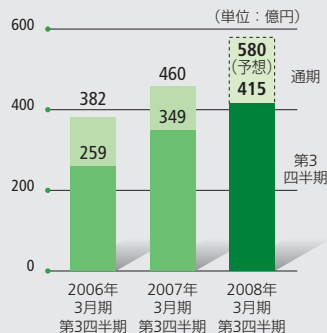


売上高は増加したものの、売上原価の増加を抑制しました。一方で、成長を持続的にするための活動を積極的におこないました。この結果、営業利益は前年同期比18.9%の増益となりました。

経常利益

415億円

前年同期比 **+19.1%**

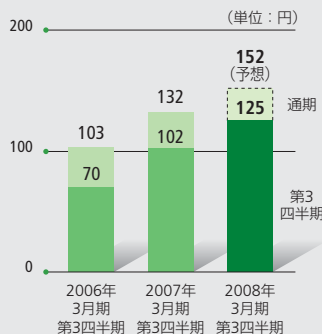


営業利益の増益に加え、受取利息、受取配当金の増加により、415億円と前年同期比19.1%の増益となりました。

1株当たり当期純利益 (注) 3

125円

前年同期比 **+22円**

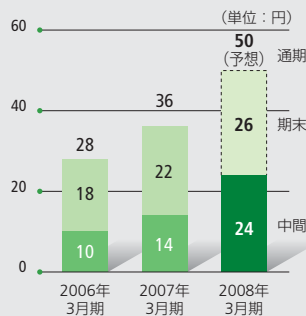


当期純利益の増加にともない、前年同期より22円増加しました。

1株当たり年間配当金 (予想) (注) 3

50円

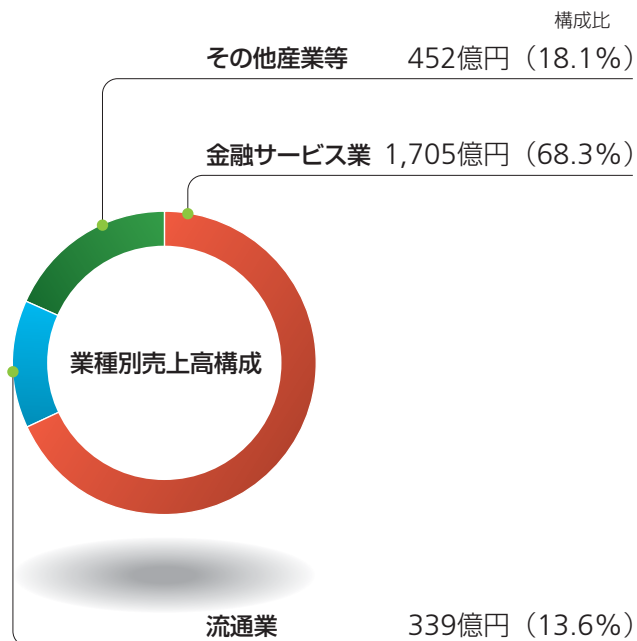
前期比 **+14円**



2008年3月期の年間配当予想を50円（うち期末配当26円）に修正しました。（2007年10月に公表した予想に比べ2円の増加となります。）

業種別売上高

売上高を業種別に見ると、証券業向けをはじめ、銀行業向けや保険業向けの案件が大きく増加したことで、特に金融サービス業向けが伸長しました。



(注) 1. 記載金額は、億円未満を切捨てて表示しております。
 (注) 2. 当期より業種区分を変更しました。

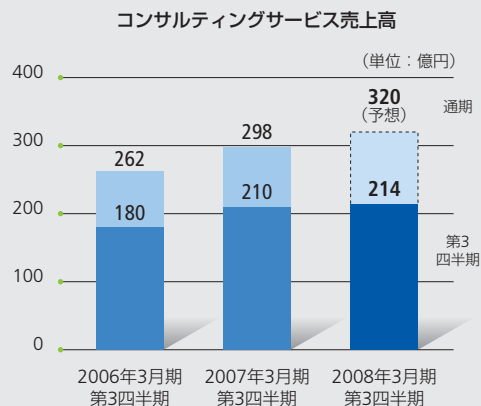
セグメント(サービス)別売上高

コンサルティングサービス

214億円

前年同期比 **+1.8%**

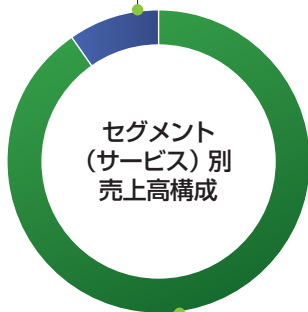
調査・研究、経営コンサルティング、システムコンサルティングなどのサービスを提供しています。NRIグループではナレッジ(=知)を核にして、お客様の問題解決と新しいビジネスの創出を手がけています。



経営コンサルティングおよびシステムコンサルティングとともに底堅い業績だったものの、アジアにおける経営コンサルティングなど将来に向けた活動に注力した結果、売上高は前年同期に比べ1.8%増収の214億円となりました。

(注) 記載金額は、億円未満を切捨てて表示しております。

コンサルティングサービス
構成比
214億円 (8.6%)



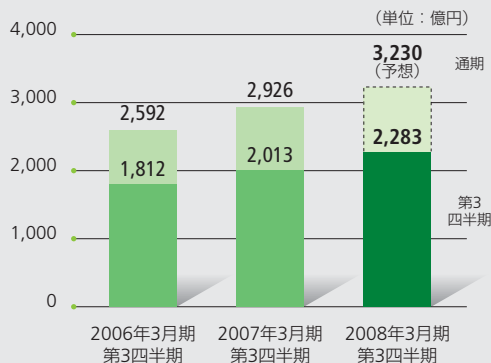
ITソリューションサービス
構成比
2,283億円 (91.4%)

ITソリューションサービス

2,283億円 前年同期比 **+13.4%**

最先端の情報技術と長年にわたって蓄積してきた業務知識を活用し、お客様との事業・業務改革に関わるIT戦略パートナーとして、情報システムの企画・設計から、開発・運用までをおこなっています。

ITソリューションサービス売上高



証券業をはじめ銀行業や保険業などの金融サービス業向けが好調で、ITソリューションサービスの売上高は、前年同期に比べ13.4%増収の、2,283億円となりました。

(注) 記載金額は、億円未満を切捨てて表示しております。

要約連結損益計算書 (未監査)

単位：百万円

	前第3四半期 自2006年4月1日 至2006年12月31日	当第3四半期 自2007年4月1日 至2007年12月31日	増減額
▶ 売上高	222,381	249,824	+27,442
▶ 売上原価	159,639	173,441	+13,801
売上総利益	62,742	76,383	+13,640
▶ 販売費及び一般管理費	29,794	37,215	+7,421
営業利益	32,948	39,167	+6,218
営業外損益	1,982	2,419	+437
▶ 経常利益	34,930	41,586	+6,656
▶ 特別損益	△7	1,776	+1,784
税金等調整前当期純利益	34,922	43,363	+8,440
法人税等	14,018	17,897	+3,879
当期純利益	20,904	25,466	+4,561

▶ 売上高

ITソリューションサービスの売上高が前年同期に比べ270億円増と大きく増加し、売上高を牽引しました。(→P3~4参照)

▶ 売上原価

中国の外注の活用や、プロジェクト管理の強化、生産性および品質向上活動の推進により、売上原価の増加を抑制しました。

▶ 販売費及び一般管理費

研究開発活動や、生産性や品質の向上、人材育成の強化および労務環境の改善など、成長を持続的にするための取り組みを積極的におこないました。

▶ 経常利益

営業利益の増益に加え、受取利息、受取配当金の増加により、経常利益は前年同期に比べ66億円の増益となりました。

▶ 特別損益

保有株式の売却益などがあり、特別損益は17億円となりました。

(注) 1. 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

(注) 2. 各第3四半期の連結財務諸表の作成につきましては、一部簡便的な方法を採用しております。

要約連結貸借対照表（未監査）

単位：百万円

	前第3四半期 (2006年12月31日現在)	当第3四半期 (2007年12月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	195,964	191,167
固定資産	144,629	158,152
有形固定資産	41,709	54,548
無形固定資産	21,850	27,894
投資その他の資産	81,068	75,708
資産合計	340,594	349,320
(負債の部)		
流動負債	55,871	53,611
固定負債	74,948	73,316
負債合計	130,820	126,927
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	18,600	18,600
資本剰余金	14,800	14,855
利益剰余金	200,951	223,088
自己株式	△47,852	△46,455
株主資本合計	186,499	210,088
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	22,485	11,525
為替換算調整勘定	584	267
評価・換算差額等合計	23,069	11,793
新株予約権	204	510
純資産合計	209,774	222,392
負債・純資産合計	340,594	349,320

要約連結キャッシュ・フロー計算書（未監査）

単位：百万円

	前第3四半期 自2006年4月1日 至2006年12月31日	当第3四半期 自2007年4月1日 至2007年12月31日	増減額
▶ 営業活動による キャッシュ・フロー	12,858	19,574	+6,715
▶ 投資活動による キャッシュ・フロー	△9,862	△37,289	△27,427
▶ 財務活動による キャッシュ・フロー	43,545	△8,642	△52,187
現金及び現金同等物に 係る換算差額	69	△176	△246
現金及び現金同等物の 増減額（減少：△）	46,611	△26,534	△73,145
現金及び現金同等物の 期首残高	50,752	115,854	+65,101
現金及び現金同等物の 期末残高	97,363	89,319	△8,044

▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー

好調な業績により利益が増加し、営業キャッシュ・フローは195億円となりました。

▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー

新たに建設した横浜第二データセンターへの投資や、資金運用投資により、△372億円となりました。

▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払いなどにより、△86億円となりました。

NRIのアグリゲーション技術を導入した「JAL MAP」がグッドデザイン賞を受賞

(2007年10月1日発表)



「JAL MAP」



NRIの**アグリゲーションサービス**「InterCollage」を活用した日本航空のWebサービス「JAL MAP」が、優れたデザインに贈られる2007年度のグッドデザイン賞（コミュニケーションデザイン部門）を受賞しました。「JAL MAP」は海外旅行者の間でニーズの高い、海外主要都市の地図、およびそれと連動したホテル・レストラン予約やショップ検索機能を提供しています。NRIは「JAL MAP」のほかにも、国際線予約などで、日本航空のホームページの利便性を向上させるサービスを提供しています。

アグリゲーションサービス：

散在する複数のWebサイトから必要な情報を集めて1つのWebサイト上に集約し、閲覧できるようにするサービス

国内最新鋭設備を誇る「横浜第二データセンター」が竣工 (2007年10月2日)

NRIではシステム運用ビジネスの強化・拡大を中長期的な事業戦略の1つと考えており、耐災害性やセキュリティなどの面で国内トップレベルのデータセンター「横浜第二データセンター」を建設しまし

た。従来から所有する日吉・横浜第一・大阪に次いで4つ目のデータセンターとなります。

金融機関を中心に高機能なデータセンターに対する需要が旺盛な中、最新鋭の設備を持った「横浜

第二データセンター」はお客様から多くの引き合いをいただいています。



日吉データセンター



横浜第一データセンター



大阪データセンター



2007年10月に竣工した横浜第二データセンター

ディスクロージャー優良企業に5年連続で選定される (2007年10月9日発表)

日本証券アナリスト協会が実施した「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定（平成19年度）」において、コンピュータソフト部門の優良企業に選定されました。NRIの受賞は5年連続になります。経営トップがIR活動の重要性を認識し、説明会等をおこなっ

ていることや、IR部門に十分な情報が集積されていること、決算説明資料の充実、ホームページでの情報提供などが高く評価されました。今後もNRIは株主・投資家の皆様への情報提供を充実するように努力してまいります。



記念の楯を受け取る副社長の奥田（右）

買い物レシートのデータを収集し、消費動向データを提供するサービスを開始

(2007年10月26日発表)

NRIは、消費者の買い物レシートの情報を収集し、自動的に家計簿を作成する仕組みを開発しました。この仕組みでは、専用のレシート読み取り機器（スキャナー）と家計簿ソフトを提供し、消費者がレシートを読み取り機器に読み込ませることで、自動的に家計簿を作成することができます。利用者にとって、家計簿作成の負担が大幅に軽減されるという利点があります。

NRIはこの家計簿データを自動的に収集して集計し、消費動向データとして企業向けに提供します。

このデータを企業は商品開発や宣伝戦略に活用することができます。

開始当初は消費者モニター1,000人のレシート情報を収集します。モニターの募集については、株式会社学習研究社に運営を委託し、女性向けコミュニティサイト「kurasse（クラッセ）」(<http://kurasse.jp>)上で11月1日よりモニターの応募を受け付けました。



レシートを読み取る専用リーダー



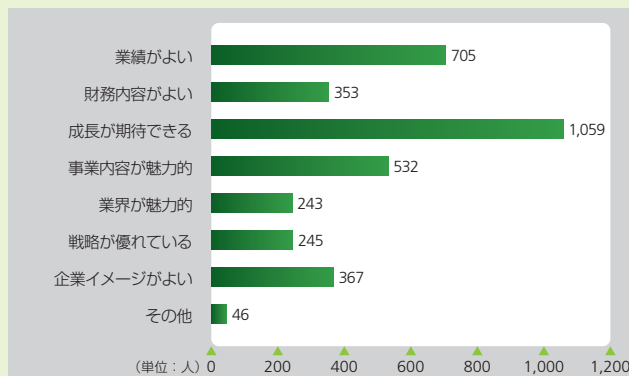
家計簿ソフト画面

アンケート結果より (回答数：1,559 回収期間：2007年8月27日～2007年10月31日)

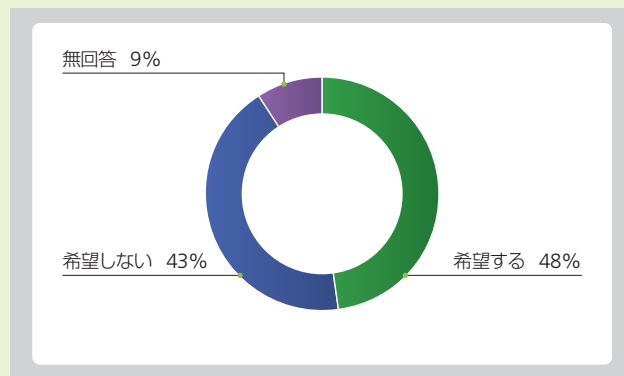
NRIでは年2回、「NRIだより」にアンケートを同封し、株主の皆様のご意見をうかがっています。「NRIだより」2007年Vol.3に添付したアンケートにも多数のご回答をいただき、ありがとうございました。

下記にご紹介した以外にも、自由回答ではNRIの事業戦略のほか、「NRIだより」や未来創発フォーラムなどに関して多数のご意見、ご要望をいただきました。皆様のご期待にお応えできるよう、今後も努力してまいります。

NRI 株式会社のご購入にあたり、当社のどこに魅力を感じましたか (複数回答)



個人投資家向けの説明会を希望しますか



単行本紹介

2015年の日本 —新たな「開国」の時代へ—

明治維新、戦後に匹敵する「開国」の時代を展望
NRIの気鋭のメンバーが大胆に将来社会像を提言

野村総合研究所 2015年プロジェクトチーム 著
東洋経済新報社 発行
2007年12月27日
定価：本体1,600円+税
四六判・276ページ
ISBN 978-4-492-39493-1
ハードカバー

【目次】

- 第1章 成熟化が加速する2015年の日本
- 第2章 2015年の日本、新しい家族のかたち
- 第3章 イギリスの経験に学ぶ2015年日本活性化の条件
- 第4章 「第三の開国」の必要性
- 第5章 「第三の開国」で脱ガラパゴス化をめざす日本の産業
- 第6章 「第三の開国」で閉塞突破をはかる地域社会
- 第7章 「第三の開国」に向けて

ファースト リテイリング (韓国)	ファミリーマート (上海)	三城(上海)	食品計画(韓国)
吉野家D&C(深 圳)	大戸屋(タイ)2社	フードスコop (香港)	ワタミ(台湾)
レイズ インターナショナル (シンガポール)	ワタミ(深圳)	出所)海外進出企業総覧 会社別編 2008	



4. 成長しきれないサービス産業

業種	2007	2008	2009
情報通信業	10.1%	10.1%	10.1%
製造業	10.1%	10.1%	10.1%
卸売業	10.1%	10.1%	10.1%
小売業	10.1%	10.1%	10.1%
飲食業	10.1%	10.1%	10.1%
宿泊業	10.1%	10.1%	10.1%
娯楽業	10.1%	10.1%	10.1%
運輸業	10.1%	10.1%	10.1%
建設業	10.1%	10.1%	10.1%
不動産業	10.1%	10.1%	10.1%
金融業	10.1%	10.1%	10.1%
保険業	10.1%	10.1%	10.1%
学業	10.1%	10.1%	10.1%
医療業	10.1%	10.1%	10.1%
福祉業	10.1%	10.1%	10.1%
その他	10.1%	10.1%	10.1%

2003年からNRIが
毎年行ってきた「未来創発フォーラム」。
2007年10月は、大阪、名古屋、東京の
3都市開催となりました。
2010年代に向け、世界のなかの日本のあり方を、
開催各地の地域特性も踏まえつつ、
展望していきました。

2007

セキヤテクノロジーズ株式会社	NRIワイヤレス株式会社
社会情報システム株式会社	株式会社(スナフ)



大阪・名古屋・東京で開催 未来創発フォーラム2007

変わりゆく世界、進みゆく日本。
2010年の日本——「競争」、そして「共生」を考える。

大阪

2007年10月10日(木)
13:30→17:30
大阪国際会議場
[メインホール]

世界に対する
今後の日本のあり方を
関西を元気にする視点から
考えていきました。

【講演】
ニッポン、
カンサイ
たてヨコ斜め

3 都市開催の「未来創発フォーラム2007」は大阪からスタートしました。会場となった大阪国際会議場メインホールには、最初に、数学者であり大道芸人としても知られるピーター・フランクルさんが講演に立ちました。フランクルさんはボーリングのピンに似たジャグリングの道具を、お手玉のように頭上に放り投げ、回す大道芸を披露しながら舞台に登場。来場者から盛大な拍手を受けてから「ニッポン、カンサイ たてヨコ斜め」をテーマに、日本に15年以

上暮らしてきたからこそ感じる日本や関西の良さ、変化や将来像について、自身の体験エピソードを交えながら話していきました。

経済的には豊かな日本 人生を楽しむゆとりを

フランクルさんは、最近の日本では外国人に英語で対応するようになってきたが、その分、相手の気持ちに配慮した接し方を失っている、また、日本は経済的に十分豊かなの



【講演】
日本経済
本格回復への
課題

NRIチーフエコノミストのRichard Kooは、講演「日本経済 本格回復への課題」で「日本のこれまでの不況は、経済のどの教科書にも載っていない特殊なものだった」と語り始めました。

Kooは、企業の債務返済によって起きた「バランスシート不況」を説明し、不況からようやく回復してきた今日、その回復に影を落とす要注意点として、国内外の問題を挙げました。例えば、アメリカの住宅バブルの崩壊が日本の輸出に及ぼす悪影響、成長を続ける中国の存在、日本国内の消費の伸び悩みなどです。過去にとらわれない新しいチャレンジの必要性和、それができる人材育成の重要性も指摘しました。

【パネルディスカッション】

2010年 世界からみた関西



国際ジャーナリスト
蟹瀬 誠一さん



数学者
ピーター・フランクルさん



作家
谷崎 光さん



株式会社村元工作所
取締役 村元 四郎さん



NRI大阪オフィス代表
足立 興治

だから、日本人はもっと人生を楽しんでほしい、などを指摘しました。

NRIチーフエコノミストのリチャード・クーによる講演の後、休憩をはさんでパネルディスカッション「2010年 世界からみた関西」へ。モデレーターとなった国際ジャーナリストの蟹瀬誠一さんによる「関西を元気にしていくにはどうすればいいのか?」という問いかけから、議論が進んでいきました。関西出身で中国貿易商社に勤めた経験のある作家の谷崎光さんは、関西の強みや良さをアピ

ールする必要性を語りました。フランクルさんは、関西のものづくりや、そこで育まれてきた知恵を生かせるのではないかと発言しました。

関西の強みを再認識 アジアと一体に考えていく

海外10カ国に工場を展開する株式会社村元工作所取締役の村元四郎さんは、グローバルに事業を進めてきた経験から、関西の活性化を考えるとときは東京と比較するのではなく、

アジアと一体になってとらえる重要性を指摘しました。関西エリア企業の成長を支援してきたNRI大阪オフィス代表の足立興治は、関西地域はまず足元をきちんと見た上で目標をどこに置くのか定め、強みとなるものを磨いていくべきだと述べました。

ファミリービジネスが盛んでものづくりのDNAが継承されており、地理的にも文化的にもアジアに至近な関西。こうしたことを強みに、関西のポテンシャルを見直して力を発揮していくことが再確認されました。

名古屋

2007年10月19日(金)

13:30 - 17:30

名古屋国際会議場

[センチュリーホール]

Dream up the future.

日本の中でもとりわけ
活力のある名古屋から
進みゆく今後の
方向性を探りました。



続 く名古屋のフォーラムは、名古屋国際会議場センチュリーホールを会場にして行われました。大阪同様、最初に挨拶に立ったNRI取締役社長の藤沼彰久は、NRIの事業や理念、ならびに日本の世界に対するリーダーシップのあり方について探っていく今回のフォーラムテーマについて説明しました。

世界との共生によって 競争も可能になる



講演に立ったNRI理事長の村上輝康は、中国、インド、韓国、ベトナムなどのメガグロウス(Mega-Growth)諸国の台頭によって、日本の国際競争力環境が大きく変化していることを説明しました。村

上は、メガグロウス諸国が今後、世界経済の主要プレーヤーになるとともに日米欧の市場に匹敵する規模の市場を広げていくと予測。その中で「日本は従来からの強みであるハイエンドのユビキタスネットワーク関連産業を強化させるとともに、ミドルティアやローエンド市場が持つ多様性やメガグロウス諸国の経営資源と共生しながら国際競争を実現させていくべきである」と述べました。

第1部の講演では、NRI理事長の村上輝康が日本は、今後、世界とどうかかわっていくべきか具体的に語っていきました。次いで、NRIにも在籍していたことのあるモルガン・スタンレー証券株式会社マネージング・ディレクターのロバート・アラン・フェルドマンさんが、「金融大国になれるかニッポン」をテーマに講演。日本に長期在住する自身の経験を踏まえ、問いかけたテーマへの課題と解決策について、具体的に答えていきました。

第2部は「名古屋発、2010年の“ものづくり”」をテーマにパネルディスカッションが行われました。モデレーターとなったジャーナリストの池上彰さんによる「“進みゆく日本”になるにはどうすればいいのか、ものづくりに優れた元気な名古屋から考えていこう」との問いかけから議論はスタート。デザインディレクターであり大阪大学大学院教授・名古屋市立大学大学院名誉教授の川崎和男さん、作家の幸田真音さん、株式会社デンソー取締役副社長の岩月伸郎さん、そしてNRI名古屋オフィス代表の奥田誠の5人のパネリストが、名古屋を中心とした東海エリアの強みを分析しながら、今後の進むべき方向について意見を述べていきました。

我慢強さとチーム力は東海地域の強み

デンソーの岩月さんは「東海地域の人々は我慢強く、また、チームで仕事をすることを得意としている。この二つが組み合わさると大きな力にな



る。これらを生かしてグローバルにチャレンジしていくべき」と発言。デザインディレクターの川崎さんは、トヨタの影響力が大きい東海地域は「未来を考えるなら、いったんトヨタの世界から離れるほうがいい」と指摘しました。トヨタでも、次の時代を支える新しい企業が登場することを望む声が出ているとNRIの奥田が補足。トヨタばかりに寄りかからず、別の軸をつくっていこうとする意欲があつてこそ、東海地域はさらに発展していくとまとめました。



デザインディレクター
川崎 和男さん



作家
幸田 真音さん



株式会社デンソー
取締役副社長
岩月 伸郎さん



NRI名古屋オフィス代表
奥田 誠

東京

2007年10月29日(日)

13:30 → 17:30

東京国際フォーラム

[ホールA]

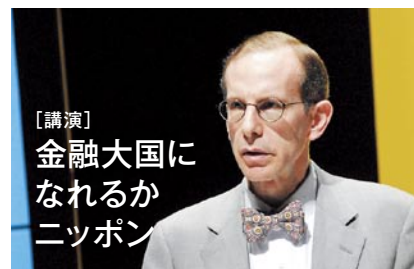
世界の人を引きつける
魅力的な
日本・東京の姿を
模索しました。

今年で5回目となった東京開催の「未来創発フォーラム」は、およそ2500人の来場者を迎えて幕を開けました。

NRI取締役社長・藤沼彰久の挨拶の後、名古屋開催のフォーラム同様、NRI村上輝康による「変わりゆく世界と『国際共生力』」、ならびにモルガン・スタンレー証券のロバート・アラン・フェルドマンさんによる「金融大国になれるかニッポン」をテーマにした講演が行われました。

フォーラムの総まとめ 「2010年の日本」を探る

休憩をはさんで、大阪・名古屋で開催されたフォーラムの概要報告がビデオ上映された後、第2部のパネルディスカッション「2010年 世界のなかの日本、そして東京」が始まりました。モデレーターはジャーナリストの池上彰さん。パネリストは、フェルドマンさん、作家の幸田真音さん、森ビル株式会社取締役副社長の山



この日2人目の講演ではロバート・アラン・フェルドマンさんが舞台に立ち、1970年代から日本の金融業界にかかわってきた自身の経験を踏まえて、日本が金融大国になるために何をすべきかを語っていきました。

金融大国になるための諸条件は整いつつあるものの「企業の生産性や収益率の低さ、財政赤字、税率の高さ」などが障壁となっているとフェルドマンさんは分析します。これらをクリアするには「経済の活性化とそのため規制緩和、魅力的な金融市場づくり、魅力的な政治の実施と改革が必要」として、実現のための具体策も述べました。最後に、実現できるかどうかは国民一人ひとりの努力にかかっていると結びました。

本和彦さん、そしてNRI理事の椎野孝雄。3都市で開催してきたフォーラムの総まとめとして、変化する国際社会への日本のかかわり方、その中で東京のあり方を模索しました。

議論の中で森ビルの山本さんは、東京にビルが建ち並び、都市として発展を続けてきた中で、ファッションやアニメコンテンツなどのサブカルチャーが育ってきた、それが今日の東京の魅力になっている、と指摘。こうした現象に示されるように、日本では、人・資本・アイデアのぶつかり合いに

よって新しいカルチャーが生み出されてきたのではないかと話が発展していきました。

キーワードは コラボレーション

それが、今後の国際社会において、東京の魅力を引き出し、日本の発展にどうつなげていくかというヒントになると池上さんは述べました。幸田さんは「キーワードはコラボレーション」と発言し、例えば海外

の人が東京をゲートウェイとして他都市にも気軽に移動できるよう、インフラも含めたさまざまな要素を連携させていく必要があると話しました。

NRIの椎野は、アジアの人を東京に呼び込んで魅力を伝えていく重要性も指摘。池上さんは、多様な要素のぶつかり合いによって新しいものが生まれている場所が東京だ、と世界中の人が知ることで、東京が一層、人を引きつける魅力的な街となり、世界の中の日本・東京として発展していくのではとまとめました。



[パネルディスカッション]

2010年 世界のなかの日本、そして東京



ジャーナリスト
池上 彰さん



モルガン・スタンレー証券
ロバート・アラン・
フェルドマンさん



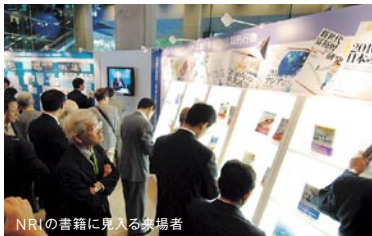
森ビル株式会社
取締役副社長
山本 和彦さん



作家
幸田 真音さん



NRI理事
椎野 孝雄



大阪・名古屋・東京で開催した今回のフォーラムでは、それぞれの会場ロビーで、NRIの企業理念や事業内容を伝える展示を行いました。休憩時間になると、NRIの考え方や沿革を伝えるパネルや、身近な暮らしの中で役立っているNRIのサービス事例の展示に見入る人々でロビーはあふれていました。来場者には、NRIをコンパクトに紹介した冊子①「わたしたちはこんな会社です。」や未来社会について予測・提言する小冊子②「NRI未来ナビ」、個人投資家向けの小冊子③、NRIのサービス事例を伝えるパンフレット④「NRI Solutions」、広報誌⑤「未来創発」なども配布されました。

会社概要

会社名	株式会社 野村総合研究所
英文社名	Nomura Research Institute, Ltd.
所在地	〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目6番5号 丸の内北口ビル
沿革	1965年4月 株式会社野村総合研究所 (NRI) 設立 1966年1月 株式会社野村電子計算センター (NCC) 設立 1988年1月 両社が合併
資本金	186億円
代表者	取締役社長 藤沼 彰久
従業員数	4,687名/NRIグループ5,653名

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (連絡先・照会先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-232-711
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村証券株式会社 本店および全国各支店 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行のフリーダイヤル（自動応答）およびインターネットでも24時間承っております。 フリーダイヤル 0120-244-479（本店証券代行部） 0120-684-479（大阪証券代行部） インターネットホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/
単元株式数	100 株
公告方法	電子公告（当社ホームページ http://www.nri.co.jp ） ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

「NRI未来ナビ」

産業界の動向や企業経営の方向性、あるいは新しい社会や生活についてのNRIの提言や予測を生活者視点でまとめたものを、「NRI未来ナビ」ホームページに随時掲載しています。

これまでの掲載内容をまとめた小冊子「NRI未来ナビ文庫」を発刊し、未来創発フォーラムなどで配布するほか、東京・丸の内の一部無料配布ラックに置いています。



<http://www.nri.co.jp/navi/index.html>